

第3回河川工作物WG結果概要

- 1 日時 平成18年12月5日(火) 9:00~12:30
- 2 場所 北海道大学 学術交流会館
- 3 出席者
 - (1) 委員(五十音順、敬称略)
 - 岡部 健士 徳島大学工学部教授
 - 小宮山 英重 野生鮭研究所
 - 妹尾 優二 流域生態研究所
 - 中村 太士 北海道大学大学院農学研究科教授(座長)
 - 丸谷 知己 北海道大学大学院農学研究科教授
 - (2) オブザーバー(五十音順、敬称略)
 - 大泰司 紀之 知床世界自然遺産科学委員会委員長
 - 帰山 雅秀 北海道大学大学院水産科学研究院教授
 - (3) 関係行政機関
 - 斜里町、羅臼町
 - (4) 事務局
 - 林野庁北海道森林管理局、環境省釧路自然環境事務所、北海道
- 4 議題及び検討結果(主な意見)
 - (1) 影響評価に係る調査結果報告
 - ア 調査データの整理について
 - データの表記については、調査日時、調査方法等が客観的にわかるように整理することが必要。
 - (2) 影響評価の中間検討
 - ア 流出可能土砂の評価について
 - 評価表の数値的なデータの記載が必要。
 - 評価表は、スクリーニング用の前資料との位置づけである。個別の評価については、色々意見はあると思うが、優先してどこから手をつけるかの判断材料とすることが必要。
 - 土砂関係についてもデータを示すことが必要。人命に関わることなので、もう少し正確なデータで評価することが必要。
 - 絶対評価の記載がどこかに必要。
 - イ 現状維持とする工作物について
 - 栄町の沢、発電所川、知床大橋上流にある治山ダム 8~11、知徒来川の工作物については、現状維持とすることで了解する。
 - ウ 各河川の工作物の影響評価の中間検討について
 - (ア) 羅臼川

砂防ダム 20の改良は下流の取水堤に影響があり、治山ダム 4、5の改良は温泉槽の保全上支障があるので、砂防ダム 19までの改良が現実的なところ。

(イ) チエンベツ川

ダムの堆砂量は少ないので何とか登らせることができるのでは。
再生産できる可能性が他の川より高いのでぜひ改良したい。
既存のダムを切り下げ、ダムの上流に更に床固工を入れる低ダムで行えば何とかやれるのでは。

(ウ) ショウジ川

チエンベツ川より評価は劣るができれば改良が望ましい。
火山堆積が河口まで達しており、災害の可能性が高いことから現状維持とすべきであり、さらにダムを設置してもいいくらい。

(エ) オショロッコ川

上流域が地滑り地であるため、改良の優先順位は低い。
オショロッコ川は橋のクリアランスが低く土砂閉塞の危険性があるので、改良の優先順位は低い。
オショロッコ川も自然の滝がすぐ上にあり遡上域が短いので改良は急がなくてもよい。

(エ) アイドマリ川

上流域が地滑り地であるため、改良の優先順位は低い。
工作物の改良は可能と思うが、下流の漁港への影響を考えると現状維持が望ましい。
上流から温泉水が流れており、産卵環境にはあまり適していないので、改良の必要性は低い。

(3) モニタリングについて

1回の調査日数が1日では少ない。熊の出没も遡上に影響するので、熊のデータも必要。

基本的には事務局案でいいが、川の状況、気象状況等で遡上匹数は変わるので、その場の状況判断が難しい。

縦横断測量よりも、写真の定点撮影が必要。

雨量のデータもできれば必要。